科目名	論理国語		学年	普通科			必/選	単位数
			2	アドバンス	キャリア	スポーツ	必	3
				国文				
			○	○	○	○		
学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>							
使用教材	<p>教科書：「新編論理国語」（大修館書店）</p> <p>副教材：「書いて覚える漢字練習ノート」（啓隆社）</p>							
評価	評価法	定期考査、小テスト（定期）、パフォーマンス課題（発表、レポート、作文）、ノート、振り返りシートで評価する。						
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。				
		b	思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。				
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。								
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法			
					a	b	c	
1 学 期	4 5 月	9 9	<p>・文章から論理を見つけよう【読むこと】</p> <p>・論理を使って説明しよう【書くこと】</p>	<p>・「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取る。</p> <p>・これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて考え、記述する。（知の登山、知の水路）</p> <p>・「論理」についての筆者の考えを読み取る。</p> <p>・筆者の主張をふまえ、これからの学習に興味をもつ。（「論理的な人」とはどのような人か）（「論理」への第一歩）</p> <p>・三角ロジックや類推、帰納法・演繹法など、論理的に考える手法を身につける。三角ロジックを用いて文章を書く。</p>	中間考査	中間考査	発表 意見文 ノート 振り返りシート	
								小テスト

1 学 期	6 7 月	10 10	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例を挙げて上手く説明しよう【書くこと】 ・具体例の分かりやすさを検討しよう【読むこと】 	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ法、ツリー図を活用しながら、具体化の仕方を学ぶ。 ・具体と抽象を用いて例文を作り、他者へ説明をする。 ・具体と抽象の関係を深く理解する。(具体と抽象の関係) ・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。 ・具体例の役割を意識して、論理の展開をとらえる。(突然変異と進化の関係) ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。(ウサギの耳はなぜ長い?) ・具体例の働きを的確にとらえる。 ・文章の構成や展開のしかたに注目しながら、筆者の主張を読み取る。(記号的メディアと物理的メディア) 	<p>期末考 査</p> <p>小テス ト</p>	<p>期末 考査</p> <p>発表 意見 文</p>	<p>発表 意見文 ノート ふり返 りシー ト</p>
2 学 期	9 10 月	9 13	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な対比の仕方を学ぼう【読むこと】 ・一目でわかる対比を使って違いを示そう【書くこと】 	<ul style="list-style-type: none"> ・対比構造を理解する。(対比を使って主張する) ・対比を用いて、レポートを作成する。 ・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。(米の種類と食文化) ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・対比の関係に注目しながら、筆者の主張を読み取る。(対話の精神) ・紙の地図とデジタルの地図の対比をし、今後どのように活用されるかについて主張をまとめる。(デジタル地図から見える世界) 	<p>中間考 査</p> <p>小テス ト</p>	<p>中間 考査</p> <p>発表 レポ ート</p>	<p>発表 レポー ト ノート ふり返 りシー ト</p>
2 学 期	11 12 月	10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・200字でスッキリまとめよう—要約を学ぼう—【読むこと】 ・主張と根拠を明示して説得力のある文章を書こう【書くこと】 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約のしかたについて理解する。(要約の方法) ・主張と根拠の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。(文化としての科学) ・主張と根拠の関係を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。(人工の自然—科学技術時代の今を生きるために) ・文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。(「考える葦」であり続ける) ・筆者の主張と、それを支える根拠の役割を的確にとらえる。 ・文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。 ・デジタル化社会の中でどのように生きていくべきかについて、自分の考えをまとめ、レポートを作成する。 	<p>期末考 査</p> <p>小テス ト</p>	<p>期末 考査</p> <p>発表 レポ ート</p>	<p>発表 レポー ト ノート ふり返 りシー ト</p>
3 学 期	1 2 3 月	13 11	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を参考に文章を正確に読みとろう【読むこと】 ・小見出しをつけてレポートを書こう【書くこと】 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな統計資料を本文と関連づけながら読む。 ・統計資料と筆者の主張の関係を的確にとらえる。(量の時代から質の時代へ) ・統計資料の読み取り方を理解する。 ・文章と統計資料の関係を的確に読み取る。 ・データのまとめ方によって、主張が変わることを理解する。(若者の「海外旅行離れ」は本当か?) ・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。(紙の本はなくなる) ・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 	<p>学年末 考査</p> <p>小テス ト</p>	<p>学年 末考 査</p> <p>発表 レポ ート</p>	<p>発表 レポー ト ノート ふり返 りシー ト</p>

				<ul style="list-style-type: none"> 紙の本は必要か不要かについてレポートを作成する。 (情報化と紙の本のゆくえ) 			
--	--	--	--	--	--	--	--

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業は、教科書を中心に進め、様々な学習活動を通じて、理解を深める。単元の目標や各授業のめあてを示し、授業内での活動から理解を評価する。また、ノートやプリント等の提出物の内容を評価する。さらに、理解の確認のため、定期考査や小テストをおこない、評価に加える。

令和 7 年度 国語科

科目名	文学国語		学年	普通科			必/選	単位数
			2	アドバンス	キャリア	スポーツ	必	2
				国文				
○	○	○	○					
学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>							
使用教材	<p>教科書：「新編文学国語」（大修館書店）</p> <p>副教材：なし（必要な資料は適宜配布）</p>							
評価	評価法	定期考査、小テスト（定期）、パフォーマンス課題（発表、レポート、作文）、ノート、ふり返しシートで評価する。						
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
		b	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。								
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法			
					a	b	c	
1学期	4月 5月	8 4	<ul style="list-style-type: none"> 二つの面から自分を紹介しよう【書くこと】 最後のセリフを想像しよう【読むこと】 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が大切だと考えたことを読み取り、理解する。 筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。（少なくとも最後まで歩かなかった） 筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。（そとみのなかみ） 自己の内側と外側を考え、文章にまとめて発表する。 本文の描写や言葉遣いから「わし」の性格や心情をとらえる。（晴れた空の下で） 「わし」が最後に語り掛けるセリフを考え紹介し合う。 	中間考査 小テスト	中間考査 発表作文	発表 作文 ノート ふり返しシート	

1 学 期	6 7 月	4	・昔話の魅力を考察しよう 【読むこと】	・話のおもしろさと教訓をとらえる。 ・話が残り続ける理由を多角的に考えレポートにまとめる。(児の飴食ひたること)	期末考 査	期末 考査	発表 意見文
		7	・一目でわかる「ナイン」マップを作ろう【読むこと】	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。情景描写の効果を考えながら読む。 ・時代設定の違いを整理し、あらすじを図にまとめる。(ナイン)	小テス ト	発表 意見 文	ふり返 りシー ト
		3	・魅力のあるキャプションを作り出そう 【書くこと】	・写真やイラストに合ったおもしろい言葉を考え、読み手の共感が得られるような言葉や表現を工夫して書く。			
2 学 期	9 10 月	6	・魅力が伝わるような読み方を考えよう 【読むこと】	・詩に表された作者の心情を読み味わう。(小景異情) ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。 ・方言やローマ字書きといった表現から、作品における効果について考える。(永訣の朝) ・表現上の工夫や作者の心情がうまく表現できる読み方を考え、朗読を行う。	中間考 査	中間 考査	発表 レポー ト
		9	・登場人物を評価しよう 【読むこと】	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。 ・登場人物の言動をもとに書評を書く。(山月記)	小テス ト	発表 レポ ート	ノート ふり返 りシー ト
2 学 期	11 12 月	8	・二つの話の共通点を説明しよう【読むこと】	・かぐや姫の心情とその変化を読み取る。 ・表現に着目し、物語を味わう。(かぐや姫の昇天) ・男が月を見て感じた心情を読み取る。 ・仕事や自然に対する描写を読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにする。(神去なあなあ日常)	期末考 査	期末 考査	発表 作文
		7	・小説と寓話の関係を知ろう【読むこと】	・小説に込められた寓意を読み取り、考えを深める。 ・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。(鉄道員)	小テス ト	発表 作文	ノート ふり返 りシー ト
3 学 期	1 2 3 月	9	・時代を越えて生まれる「恋のうた」を読み味わおう【読むこと】	・古代から現代にかけての「恋のうた」について、その考え方や前提の違いを知り、「恋のうた」に対する考えを深める。(恋のうた) ・和歌の表現に着目し、その効果について考える。 ・中世の「恋」を詠んだ和歌の内容について、自分の解釈をまとめる。(月やあらぬ)	学年末 考査	学年 末考 査	発表 意見文
		5	・「恋のうた」を小説化しよう【書くこと】	・自分が選んだ「恋のうた」を題材に短い小説を書く。	小テス ト	発表 意見 文	ノート ふり返 りシー ト

担当者からのメッセージ (学習方法など)

授業は、教科書を中心に進め、様々な学習活動を通じて、理解を深める。単元の目標や各授業のめあてを示し、授業内での活動から理解を評価する。また、ノートやプリント等の提出物の内容を評価する。さらに、理解の確認のため、定期考査や小テストをおこない、評価に加える。